

2019年度

環境経営活動レポート

対象期間： 2019年5月21日～2020年5月20日

発行日： 2020年10月30日

改定日： 2021年3月3日

マロール株式会社

653-0037 兵庫県 神戸市長田区大橋町 2丁目1番34号



エコアクション21[®]
認証番号 0000716

組織概要	2
I. 事業所名、及び代表者名	2
II. 所在地	2
III. 環境管理責任者及び担当者連絡先	2
IV. 事業の内容	2
V. 事業の規模	2
対象範囲《認証・登録範囲》	3
I. 認証・登録番号 0000716	3
II. 認証・登録事業者	3
III. 対象事業活動	3
IV. 対象事業所	3
V. 対象従業員	3
VI. 対象サイトの概略	3
VII. レポートの対象期間および発行日	3
VIII. 実施体制	4
環境経営方針	5
環境経営目標（2019年からの中期目標）	6
環境経営計画と実施内容	7
環境経営目標、環境経営計画の実績・取組結果とその評価	8
I. 二酸化炭素排出量削減	8
II. 廃棄物排出量の削減	9
III. 上水使用量の削減	10
IV. コピー用紙使用量の削減	11
V. 化学物質の管理100%達成	11
VI. RoHS規制対応資材の購入100%達成	11
VII. 環境配慮製品の拡販	12
環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	13
I. 適用される主な環境関連法規制等	13
II. 法令違反、訴訟等の有無	13
代表者による全体評価と見直しの結果と指示	14
I. 全体評価	14
II. 見直しの結果と指示	14
III. 2020年度環境レポート発行	14

組織概要

I. 事業所名、及び代表者名

マロール株式会社 代表取締役社長 兎田 朗彦

II. 所在地

本社・工場	〒653-0037	神戸市長田区大橋町2丁目1番34号	従業員数 75名
札幌営業所	〒003-0022	札幌市白石区南郷通15丁目南1-25 ティアナビル1階D号室	従業員数 2名
東京営業所	〒101-0023	東京都千代田区神田松永町7番地3 ヤマリビル402	従業員数 3名
福岡営業所	〒815-0073	福岡市南区大池1丁目23-15 高崎ビル7号	従業員数 5名
			合計 85名

(2020年5月現在。本社・工場は神戸営業所を含む)

III. 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者	常務取締役	兎田 正憲
連絡担当者	業務部総務課	鶴巻 由樹子
連絡先	電話：078-611-2158	Fax：078-641-5856

IV. 事業の内容

産業分類：一般機械器具製造業

船舶関係の油圧及び電気・電子油圧式制御システム・機器の設計、製造、販売、サービス

下記自社開発製品を製造・販売。

大型船舶向け

甲板機械（デッキクレーン、カーゴクレーン、ウインドラス、ムアリングウィンチ、トーイングウインチ等）の油圧及び電気・油圧式遠隔制御装置、バルブ開閉制御装置、他。

小型船舶向け

手動油圧操舵システム、アシスト式操舵システム、電気・油圧式動力操舵システム、オートパイロットシステム、エンジンリモコンシステム、姿勢制御システム、サイドスラスター制御システム、ウォータージェットコントロールシステム、エンジン制御盤、方位ディスプレイ、他。

その他開発依頼製品の設計・製作

V. 事業の規模

売上高	：1,293百万円 (2020年5月期)
主要製品出荷量	：156.4トン
従業員数	：85名（パート、アルバイト、契約社員を含む）
本社延べ床面積	：7,309 m ²

対象範囲 《認証・登録範囲》

I. 認証・登録番号 0000716

II. 認証・登録事業者

マロール株式会社

〒653-0037 神戸市長田区大橋町2丁目1番34号

III. 対象事業活動

船舶関係の油圧及び電気・電子油圧式制御システム・機器の設計、製造、販売、サービス

IV. 対象事業所

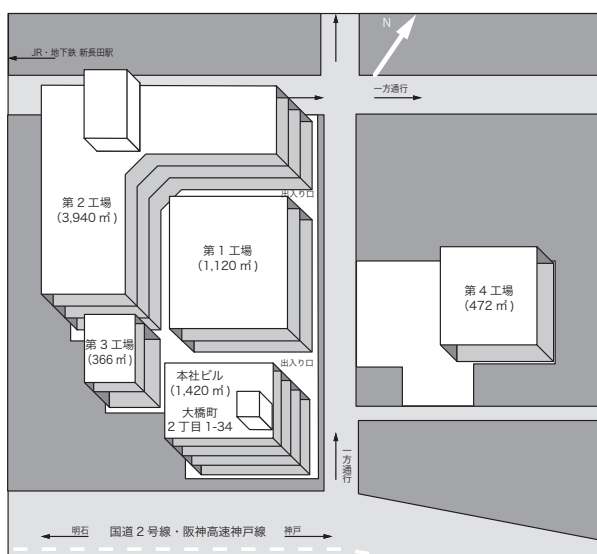
本社・工場・倉庫、東京営業所、札幌営業所、福岡営業所

V. 対象従業員

組織内で働くパート・アルバイトを含む全ての従業員。

但し、他の組織に所属する人には適用しない。

VI. 対象サイトの概略



本社・工場：神戸市長田区大橋町2丁目1番34号

札幌営業所：札幌市白石区南郷通15丁目南1-25 ティアナビル1階D号室

東京営業所：東京都千代田区神田松永町7番地3 ヤマリビル402

福岡営業所：福岡市南区大池1丁目23-15 高崎ビル7号

延べ床面積 7,309m²

延べ床面積 42.77m²

延べ床面積 25.48m²

延べ床面積 66.0m²

VII. レポートの対象期間および発行日

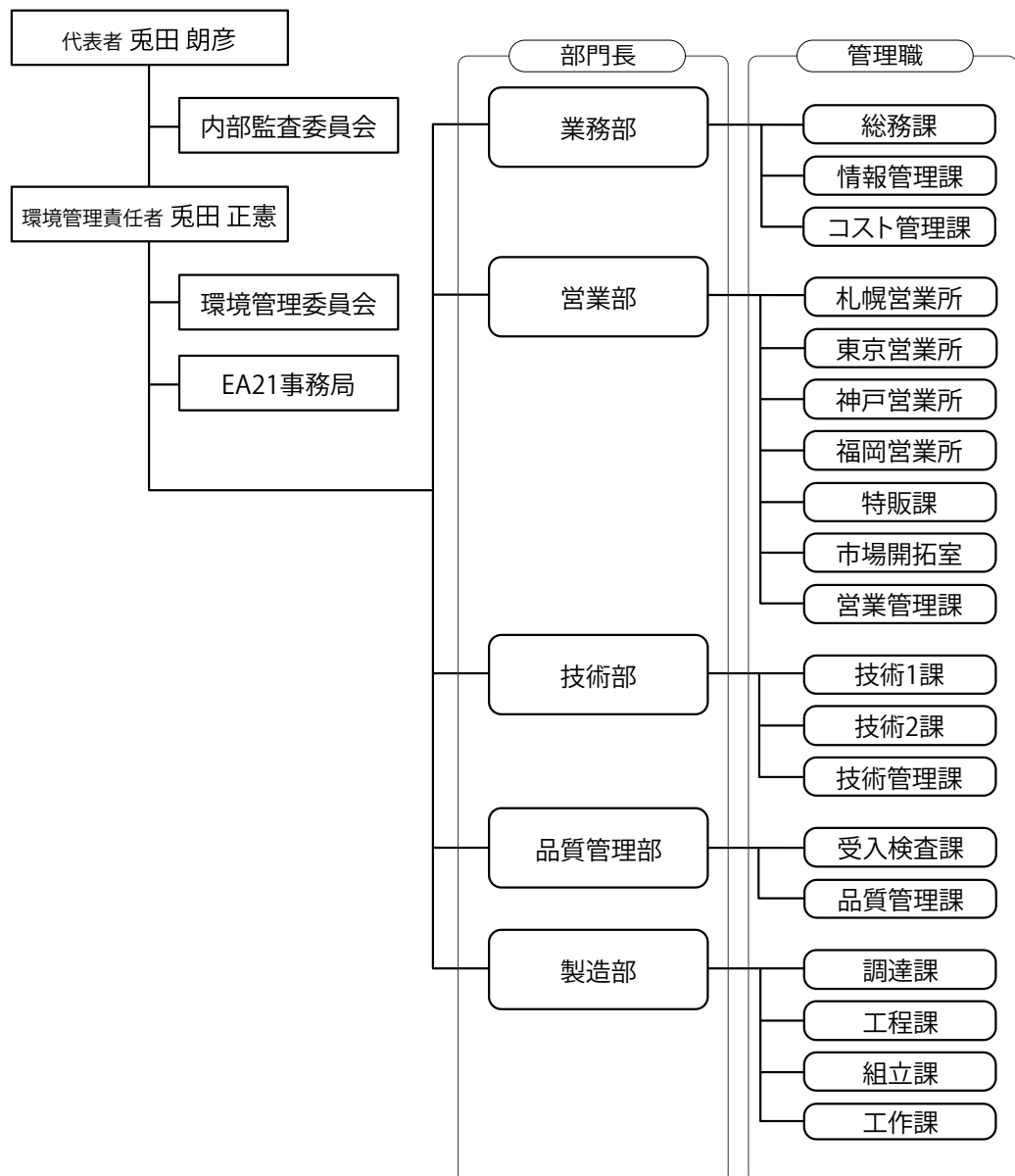
対象期間：2019年5月21日～2020年5月20日

発行日：2020年10月30日

VIII. 実施体制

環境経営システム 実施体制図

2020年5月現在



※役割・責任・権限はマニュアルにて規定

環境経営方針

企業理念

当社はWe have NEXTの理念のもと、油圧機器・電子制御機器の開発・生産・販売に至る一貫したシステムを構築し、独自性・先進性・商品価値に優れた製品を提供することでユーザーの満足度向上に貢献します。

課題とチャンス

・課題

技術進歩に対する取組。熟練技能の継承。老朽化設備の更新。若手の獲得育成。コストの削減。海外市場への進出。

・チャンス

個々の製品の統合制御化による新たな製品魅力の創出。ユーザーニーズをくみ取った製品の商品化。開発～生産～販売～サービスまでを一貫して自社で行う体制。小型船舶の操船をトータルでコントロール出来る製品群と技術力。国内小型船舶向け操船システムにおけるマーケットリーダーとしての長年の実績。

環境への取組の重点分野

- ・業務や製造工程におけるの省エネ推進（電力、ガス、水道等）を行い二酸化炭素排出量の削減、廃棄物の削減につなげる。
- ・環境に配慮した製品の開発と販売。
- ・営業活動などにおける自動車の省エネ推進。
- ・業務における紙使用量の節約。

その他

環境経営の継続的改善を実施するとともに、環境関連法規などを遵守します。

この環境方針は全従業員に周知するとともに社会にも公開します。

2005年8月5日 制定

2020年2月10日 改定

マロール株式会社

代表取締役社長 兎田 朗彦

兎田 朗彦



環境経営目標 (2019年からの中期目標)

目標項目	単位	2019 目標	2020 目標	2021 目標	2022 目標
1 二酸化炭素排出量の削減 (製品ton当たり)	kg-CO ₂ /t	3,000	3,000	3,000	3,000
1.1 電力使用量の削減	kWh	540,000	540,000	540,000	540,000
1.2 自動車燃料 (燃費)	km/l	13.10	14.00	14.00	14.00
1.2 自動車燃料 (ガソリン+軽油)	リットル	29,000	27,200	27,200	27,200
1.3 都市ガス使用量	m ³	45,000	45,000	45,000	45,000
2 廃棄物排出量の削減 (製品ton当たり)	kg/t	310	310	310	310
2.1 一般廃棄物	kg	5,800	5,800	5,800	5,800
2.2 産廃排出量	kg	40,000	40,000	40,000	40,000
3 水使用量の削減 (製品ton当たり)	m ³ /t	12.30	12.30	12.30	12.30
水使用量	m ³	1,850	1,850	1,850	1,850
4 コピー用紙使用量の削減 (枚数)	枚	330,000	330,000	330,000	330,000
5 化学物質使用量の削減 (チェックリスト管理)	%	100	100	100	100
6 RoHS規制対応資材の購入率	%	100	100	100	100
7 製品の環境性能向上 (環境配慮製品の販売率アップ)	%	100	100	100	100
製品出荷重量	ton	180	180	180	180

目標値＝過去3年の実績平均を維持管理することを目的としています。

製品ton＝各製品の標準的な重量×出荷台数より算出。

拠点別目標 (2019)		合計	本社	札幌	東京	福岡
電力使用量	kWh	540,000	531,500	2,500	-	6,000
自動車燃料 (燃費)	km/l	13.10	13.10	13.10	13.10	13.10
都市ガス使用量	m ³	45,000	44,850	150	-	-
水使用量	m ³	1,850	1,740	85	-	25

札幌営業所＝2019/1増員移転。電力などの使用増加を見込んだ推定値。

東京営業所＝電力、都市ガス、上水は賃貸(共同利用)のため集計不能。

福岡営業所＝オール電化のためガスは不使用。

環境経営計画と実施内容

計画項目	計画達成手段	日程
1 二酸化炭素排出量の削減		
1.1 電力使用量	・節電活動の徹底 空調温度の調整、必要に応じたオンオフ 不要な照明の消灯 工場設備の不要電源を落とす デマンド装置の活用	毎日
1.2 自動車燃料使用量	・運転記録の記入、燃費計算の実施、エコ運転の推進など	毎日
1.3 都市ガス使用量	・春/秋の空調機器使用削減、空調温度の調整など	季節に合わせて
2 廃棄物排出量の削減		
2.1 一般廃棄物	・分別の徹底、リサイクルの促進など	毎日
2.2 産廃排出量	・廃棄物の分別の徹底、リサイクルの推進など	毎日
3 上水使用量の削減		
上水使用量	・節水活動の継続推進、空調機器の定期点検など	必要に応じて
4 コピー用紙使用量の削減	・両面コピーの徹底、廃紙の再利用、PDFの利用促進など	毎日
5 化学物質の管理	・SDSの完備、保管・使用時のチェック、管理徹底など	毎日
6 RoHS規制対応資材の購入	・製品開発時に調達部材が対応品かチェックする、等	
7 環境配慮製品の拡販	・環境負荷低減型製品(オートパイロット)への切替を進める	毎日

※オートパイロット＝船舶の針路を自動的に保持し、操船者の負担軽減を軽減します。さらに航行ルート
の蛇行やズレを抑制することで、燃費削減・航行時間削減などの効果があります。

環境経営目標、環境経営計画の実績・取組結果とその評価

I. 二酸化炭素排出量削減

目標＝3,000kg-CO₂/t 実績＝2,817kg-CO₂/t

目標項目		単位	2018 実績値	2019 目標値	2019 実績値	前年比	目標 達成率
1	二酸化炭素排出量の削減（製品ton当たり）	kg-CO ₂ /t	2,561	3,000	2,839	+11%	105%
	二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	400,535	450,000	446,460	+11%	101%
	1.1 電力使用量の削減	kWh	541,273	540,000	599,996	+11%	89%
	1.2 自動車燃料（燃費）	km/l	12.98	13.10	13.25	+2%	101%
	1.2 ガソリン/軽油（使用量）	リットル	27,592	29,000	27,272	-1%	106%
	1.3 都市ガス使用量	m ³	48,204	45,000	60,005	+24%	67%
	製品生産量	ton	156.4		157.3		

目標値＝過去3年の実績平均を維持管理することを目的としています。

灯油＝若干使用。殆どはコロナ対策で使用したストーブ用のため、目標値は設定せず使用状況の管理のみとしています。

取組結果

1.1 電力使用量【目標達成率89%、前年比+11%】

2018年度から11%増加し、目標未達に終わった。生産量は前年並みだったが残業時間の増加および空調使用期間が例年より長かったことが要因と思われる。また、一部空調機器の劣化による効率の低下による電力使用量の増加も発生した。

1.2 自動車燃料(燃費)【目標達成率101%、前年比+2%】

平均燃費が初めて13kmを越え、目標をクリアすることが出来た。燃費を考慮した運転の浸透に加え、第4四半期から導入開始したハイブリッド車両の効果が大きいと考えられる。

1.3 都市ガス使用量【目標達成率67%、前年比-24%】

ほぼ全て空調機器での使用。劣化による効率低下が大きな増加要因となった。

評価と次年度取組内容

残業時間、空調利用期間の増加要因に加え、空調機器の劣化による電気・ガス使用量増加が大きくなった。通常使用における節約行動は十分浸透してる。今後空調機器のメンテもしくは更新を検討する。営業車両に関してはハイブリッド車の導入が始まっており、今後随時置き換えを進める。従来のリッター12km前後から20km近いレベルまで改善が見込まれる。

本社照明機器を2019年度末に全数LEDに置き換えを実施した。効果はまだ確認できていないが、2020年度以降の電力削減効果に期待する。

II. 廃棄物排出量の削減

目標＝310kg/t 実績＝303kg/t

目標項目	単位	2018 実績値	2019 目標値	2019 実績値	前年比	目標 達成率
2 廃棄物排出量の削減(製品ton当たり)	kg/t	245.19	310.00	303.28	+24%	102%
廃棄物総排出量	Kg	38,347	45,800	47,706	+24%	96%
2.1 一般廃棄物	kg	5,560	5,800	5,610	+1%	103%
2.2 産廃排出量	kg	32,787	40,000	42,096	+28%	95%
製品生産量	ton	156.4		157.3		

目標値＝過去3年間の実績値の平均を元に算出

取組結果

2.1 一般廃棄物【目標達成率103%、前年比+1%】

OA紙、新聞紙、雑誌類は増加したが、最も多い段ボールと機密書類が大きく減ったことで目標を達成出来た。今後も適切な処理を心掛ける。

目標項目	単位	2018 実績	2019 実績	前年比
OA紙	kg	230	340	+48%
OA紙以外	kg	470	690	+47%
新聞紙	kg	170	230	+35%
雑誌類	kg	310	400	+29%
段ボール	kg	3,270	3,090	-6%
その他(機密・溶解処理)	kg	1,110	860	-23%
合計	kg	5,560	5,610	+1%

2.2 産業廃棄物【目標達成率95%、前年比+28%】

昨年実施しなかった廃油・廃酸の一括廃棄処理を実施したためこの項目は大きく増加した。
その他の項目はほぼ予定通りの実績となった。

目標項目	単位	2018 実績	2019 実績	前年比
金属くず	kg	24,130	20,095	-17%
廃油・廃酸	kg	2,430	16,830	+593%
木くず	kg	1,990	1,550	-22%
混在	kg	4,090	2,950	-28%
その他	kg	147	671	+356%
合計	kg	32,787	42,096	+28%

廃油・廃酸＝工作機械で使用する切削油、洗浄液など。特別管理産業廃棄物ではありません

木くず＝使用済み木製パレット

混在＝使用済み梱包材、廃プラ、ゴムくず、ガラスくず等

その他＝基板、電線ケーブル等

評価と次年度取組内容

昨年度の廃油・廃酸一括処理が今年度に繰越となったため目標をクリアできなかったが、これはタイミングの問題であり実質的な廃棄物排出状況は十分に管理され、適切な状態が維持できている。
今後も継続的な取り組みを維持する。

III. 上水使用量の削減

目標＝12.30m³/t 実績＝12.74m³/t

目標項目	単位	2018 実績値	2019 目標値	2019 実績値	前年比	目標 達成率
3 上水使用量の削減(製品ton当たり)	m ³ /t	11.39	12.30	12.75	+12%	96%
上水使用量	m ³	1,782	1,850	2,006	+13%	92%
製品生産量	ton	156.4		157.3		

目標値＝過去3年間の実績値の平均を元に算出

取組結果

主な上水の使用用途は本社一部空調。電力、都市ガス使用量と同様に空調機器の効率低下により水使用量も増加した。

評価と次年度取組内容

空調機器のメンテナンス、更新等による改善を検討する。

IV. コピー用紙使用量の削減

目標項目		単位	2018 実績値	2019 目標値	2019 実績値	前年比	目標 達成率
4	コピー用紙使用枚数（A4換算）	枚	335,125	330,000	314,250	-6%	105%

目標値＝過去3年間の実績値の平均を元に算出

取組結果

コピー用紙の使用方法、帳票利用など特に前年からの変更点はないが、前年比・目標ともに達成することが出来た。地道な活動(コピーの裏紙利用)の結果だと考えられる。

評価と次年度取組内容

活動の継続に加え伝票処理手順の見直し、一部業務プロセスのIT化、書類配布の削減などを実施していく。

V. 化学物質の管理100%達成

取組結果とその評価

・SDSの完備、・特定化学物質の使用量集計（3ヶ月毎、約40品目）、・排出基準を超えた場合の届け出、・塗料・溶剤・洗剤の購入・使用・管理に関する下記5ポイント。

- I. 危険物倉庫に保管、適正量を小出しする。
- II. 当用買い、不要なストックをしない。
- III. 塗料・溶剤等の缶は必ずフタをする。
- IV. 塗料・溶剤は使い切る。
- V. 廃缶は所定の場所に保管する。

チェックリストを用いた毎日の管理、月1回の安全パトロールなどを通して、化学物質の100%管理を確認することが出来ました。

次年度取組内容

2020年度も同様の取組を継続します。

VI. RoHS規制対応資材の購入100%達成

取組結果とその評価

RoHS規制対応を要求された製品、および規制対象の新規開発品にはRoHS規制対応資材を用いること。
今年度は新規製品がありませんでした。既存製品に関しては100%適応が継続されています。

次年度取組内容

2020年度も同様の取組を継続します。

VII. 環境配慮製品の拡販

	目標項目	単位	2019 目標	2019 実績	目標 達成率
7	エコモード搭載オートパイロットの販売	%	100%	100%	100%

取組

小型船舶の操舵を自動化するオートパイロットの販売において、潮流や風の影響による、燃料消費増加・タイムロスなどを軽減する、独自のエコモード搭載機種（特許申請中）の販売率100%を目指す。

結果

2019年度は対象製品全数をエコモード搭載機種に更新することが出来ました。また販売台数も8%増加しました。

製品	2018 販売台数	2019 販売台数
オートパイロット販売総数	578	624
エコモード搭載機種	575	624
エコモード非搭載機種	3	0

評価と次年度の取組内容

エコモード搭載機種への移行はほぼ完了しましたが、今後も販売台数の確認は継続します。

今後の製品展開においては、新技術を導入した船舶の統合制御システムを市場導入し、操船負担の低減と難易度の高い操船のハードルを下げ、より安全で快適な操船をサポートしていきます。



2020年納入した消防艇。

消防活動における放水作業中でも船舶が一定の位置に留まる定点保持装置を装備しています。

放水中の操船操作が半自動化でき、消火活動の効率アップに貢献します。

環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

I. 適用される主な環境関連法規制等

適用される主な法規	主な適用事項	遵守評価
振動規制法	・ 特定施設の設置、変更の事前届け出	遵守
	・ 規制基準以下の遵守	遵守
騒音規制法	・ 特定施設の設置、変更の事前届け出	遵守
	・ 規制基準以下の遵守	遵守
兵庫県条例大気汚染防止に関する条例	・ 特定施設設置、変更、廃止等事前届け出	遵守
水質汚濁防止法	・ 特定施設設置、変更、廃止等事前届け出	遵守
廃棄物処理法	・ 一般廃棄物、産業廃棄物、水銀使用製品・産業廃棄物の運搬または処分を許可業者に委託する。	遵守
	・ マニフェストの交付と回収	遵守
	・ マニフェスト写しを5年間保存する。	遵守
	・ 産業廃棄物管理票交付状況報告を提出	遵守
PRTR法	・ 特定化学物質の排出量移動量の把握と記録、基準値以上の取扱量の場合行政に報告	遵守
有機溶剤中毒予防規則	・ 作業主任者の選任	遵守
	・ 局所排気装置の自主点検	遵守
	・ 保護具の着用、半年に1度の健康診断	遵守
消防法	・ 屋内貯蔵所の届け出	遵守
	・ 少量危険物貯蔵所の届け出	遵守
	・ 消防設備等点検結果報告（3年に1度）	遵守
エネルギー使用の合理化に関する法律	・ 熱、電気を合算した使用量が一定以上になれば届け出 指定工場・事業所となる。	遵守
自動車リサイクル法	・ 使用済み自動車の適正処理	遵守
フロン排出抑制法	・ 空調機器の3ヶ月に1度の簡易点検(H27.4施行) ・ 使用済み業務用エアコンの適正処理 ・ 地方自治体の条例の適用	遵守
水銀汚染防止法	・ 水銀ランプ、蛍光ランプに含まれている水銀量が、各々の規制値以下とする ・ 産業廃棄物として保管、廃棄の適正処理	遵守

II. 法令違反、訴訟等の有無

- ・定期的に実施する上記遵守評価の結果、環境関連法規等への違反や訴訟はありませんでした。
- ・尚、関係当局からの違反の指摘は過去3年以上ありません。

代表者による全体評価と見直しの結果と指示

I. 全体評価

継続的な取り組みによりほぼ計画通りの内容となる中、空調機器に関する電力・ガス・水道の実績が悪化しました。改善には空調機器の大幅な見直しが必要となるため、今後の設備計画において対策を検討します。

II. 見直しの結果と指示

2020年度の環境経営目標、環境経営活動は現状を維持継続します。

昨年度末に照明機器交換時のLED切替を実施したため、2020年度は省電力効果が期待できます。2020年度は実績を確認し、2021年度以降の目標に反映する予定です。

また省エネ車両（ハイブリッド車）への切替も始まっており、今後は随時燃費目標を見直す予定です。

III. 2020年度環境レポート発行

2021年10月を予定しています。



マロール株式会社

〒653-0037
神戸市長田区大橋町2丁目1番34号
tel : 078-611-2158
fax : 078-641-5856
<http://www.marol.co.jp>